

随泉寺寺報

平成16年(2004年) 9月号 第409号

TEL 082-892-0217 <http://ww41.tiki.ne.jp/~tetunari4/>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

秋季彼岸会法要

講師 浄泉寺住職 加藤一英師

講題 「一念多念文意に聞く」

2週間にわたり開催されていたオリンピックも終わりました。毎晩中継を見ていて寝不足の日々から、開放されます。しかし楽しい夢と希望を与えてくれた2週間でした。個人的に一番面白かったのは女子自由形80メートルで優勝した柴田選手でした。はじめは記録もメダルには遠く及ばない感じで、あまり期待されていませんでした。ただ子供の頃からオリンピックに出るのが夢で、こつこつと努力してきたそうです。レース途中も圧倒的な優勝候補の隣で、ただ離されない事だけを考えて、コーチから言われた【あせらず、あわてず、あきらめず】の言葉だけ、繰り返し心の中で叫んでいたそうです。負けたレスリングの選手が【今日から又新しい夢に向かっての始まりです。】といった言葉にも感動しました。4年間いやそれ以上この日の夢の為にがんばってきたのでしょうか。ひたすら追いかける夢を持っている人は幸せといえます。安芸市民病院に入院しておられる人が、オリンピックの放送を見て『明日の夢を持てる人がうらやましい』とボツリと話されました。



9月の法座予定

- 9月14日昼席午後1時より……………秋季彼岸会法座
- 9月14日夜席午後7時半より……………出張法座 桑原地区
- 9月15日朝席午前10時より……………主婦の集い
- 9月15日昼席午後1時より……………秋季彼岸会法座
- 9月23日午後7時半より……………灯茶会
- 10月 1日午後6時より……………門信徒会本部役員会

☆主婦の集い

9月15日午前10時より主婦の集いを開催します。暑い夏も過ぎ、台風が心配な時季です。もう秋の虫の声が聞こえてきます。行事の多い月ではありますが、少し心にゆとりをもってお聴聞してみませんか。加藤一英先生のお話は大変人気があります。是非この機会に誘い合わせてお参り下さい。

☆灯茶会

この世にて 六十(むそぢ)はなれぬ 秋の月
死出の山路も 面変(おもがは)りすな [千載] 俊恵法師

【語釈】◇私が六十歳になる今日まで、離れることなかった秋の月よ。今と同じように明るく死出の山路を照らしてくれ。

秋はつるべ落としいいます。7時過ぎまで明るかったお日様も、あっという間に落ちてしまいます。気が付けば秋の夕暮れです。夏の楽しかった賑わいも過ぎてしまえば何か寂しい感じがします。人生の旅路の夕暮れを迎えるときは、何か物悲しい思いがすることなのでしょうか。

秋の夕暮れ 少しゆっくりと、ともし火でもながめて、人生を振り返る時間をもってみませんか？今年も、ともし火とお茶の会をいたします。

誘い合わせてご参加下さい。9月23日午後7時半より(雨天順延)



☆おめでとうございます。

平原東の平原博之さんの長男和幸・美和さんに5月7日に長女 萌衣(メイ)ちゃんが誕生されました。新緑の季節なので緑の葉っぱのようにあざやかにすくすく育って欲しいという願いと、宮崎駿の【ととろ】のメイちゃんのように天真爛漫に育って欲しいとの願いです。

上平原第1の川野博明さんの長男 哲治・奈緒美さんに 長女 美咲(ミサキ)ちゃんが6月10日に誕生されました。美しい人生の大きな花を咲かせて欲しいという願いなのでしょう。おめでとうございます。



☆御礼

永代経懇志 式拾万円 燈明田ウノ殿 故 燈明田 真二様 特別永代経志として
特別懇資 式拾万円 井谷 忠人殿
式拾万円 奥田 泰蔵殿

少年少女の集いに参加して

2年生 井原 久保田 しほ

わたしは、きょうごはんを食べに行ったら、スイカが三こしかなかったのでびっくりしました。

あと友だちと、外や寺の中であそべたのが楽しかったです。あとゲームをはじめたのもありました。ビンゴやゲームもやりました。いちばん楽しかったのは、友達とあそんだことです。また行きたいです。ほいくえんるときに入ったことがあるので、なつかしいなと思いました。でももう行けないので、ちょっとかなしいです。でも楽しかったです。



6年生 望ヶ丘 城戸 友希

私は、ずいせん寺に来たのは、初めてで、とても不安だったけど、時間がたつうちにだんだん楽しくなってきました。友達と思いきり遊んだりすることができました。私が一番楽しかったことは、いろいろなお風呂に入ったことや、友達といっしょにご飯などを食べたことです。逆に残念だったことは、スイカ割りができなかったことや、水の流れが速くて、せっかく作ったとうろうがうまく流れなかったことです。でも私は、ずいせじ寺で、ふだんの日常生活で、あまりできないことなどが、たくさんできたので、とてもいい思い出になりました。おつとめも正座などを何分もしたので、とても疲れたけど、とてもいい経験になりました。



6年 平原東 幸尾 夏希

私はずいせん寺に始めて来ました。わからないことがあったけど、友だちがおしえてくれたりしたので楽しかったです。一番楽しかったのは、キャンプファイヤーです。いろんなゲームをしたり、歌を歌ったりして楽しかったです。あと花火をしたことです。せんこう花火がかわいくて楽しかったです。帰ってからも楽しかったです。寝るときはみんなこわがっていました。でもいつのまにか、ねている人もいました。そしてビンゴゲームも楽しかったです。さいごのほうだったので同じ物ばかりだったけど 私はハートのクリップにしました。来年来れないからさんねんだけど、楽しかったです。



辛抱してもらって生きてきた私

カレンダー9月号 東井 義雄

闇が深まるほど、星が輝きをますように、より深い暗がりの旅をつき進む私たちを見かね、真如の世界にじっとしておれず、声になって飛び出してきて下さったのが南無阿弥陀仏さまなのです。だから「南無阿弥陀仏」は、天地一杯にみちみちて、働きづめに働いて下さっている、尽十万無碍光如来さまの大悲の、こりかたまりであり、不可思議光如来さまの、おいのちのしぼり汁ともいえましょう。

私が他所へ出かけるとき、自転車で六キロばかり山を下るのですが、途中、地藏峠という夜道にお地藏さまが立っておられます。出がけには「ご挨拶を忘れぬように…」と自分に言い聞かせるのですが、夜道を風を切って下るのが気持ちいいものですから、たいていご挨拶を忘れてしまいます。ところが、自転車を押して夜道を上がる帰りのときは、いつもハッとします。お地藏さまが私を拝んで下さっているのです。私をご挨拶を忘れて坂を下るときにも、やはり拝んでいて下さったに違いないのです。私がお合掌するよりも先に、拝んで下さっているのです。そのとき、いつも「五濁悪事悪世界 濁悪邪見の衆生には 弥陀の名号与えてぞ恒沙の諸仏すすめたる」の御和讃を思い出すのです。ガンジス河の砂の数ほど沢山の仏さまが、濁りに濁り汚れた今の時代に、濁悪邪見のお前が救われる道はお念仏以外にないぞ、目覚めてくれよと、掌を合わせて私に頼んで下さっていることに気付かせていただくのです。

拝まない者も、拝まないときも、拝まれているという、大いなる願いに願われている私に気付かせていただくときに、大いなる生命と一つながりにつながらせていただけます。「拝まない者も(仏さまから)拝まれていた」、仏さまに「辛抱してもらって生きていた私」覧東井先生ならではの言葉です。

なお、「尽十万無碍光如来」とは、智慧の光で十万の世界を照らし、さわりなくことごとく生きとし生けるものをお救い下さる仏さま、「不可思議光如来」とは、人間の考えや思いをはるかにこえた智慧で、私たちをお救い下さるという仏さま(如来)という意味で、どちらも阿弥陀さまのお徳を表したものです。

